

響き合うデーブな島じかん



(俊金節)
道に立ちゆり
忍でい
吾ぬや加那
立ちゆり
駒や弦かめて
三味線ぬ

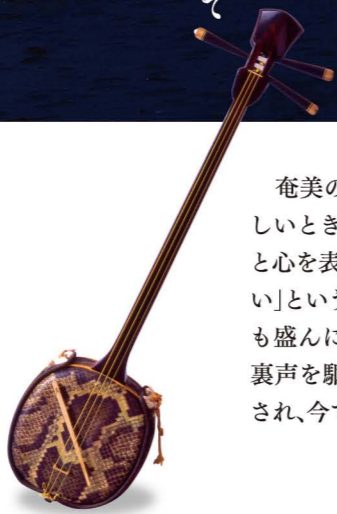


今日ぬ
誇らしやや
何時よりも勝り
何時も
今日の如に
あらち給れ
(長朝花節)

唄をかけあう 聖なる唄の島

Spiritual Song Volleys

The people of Amami have volleyed songs back and forth to one another to express happiness and sadness since ancient times. "Song volleys" like these were popular as evidenced by tales in the "Kojiki" (The Records of Ancient Matters) and "Nihonshoki" (Chronicles of Japan). The varied melodies that exhibit falsetto to its fullest are still loved by many people.



奄美の人々は、昔からうれしいときも哀しいときも、唄を掛け合うことで生き生きと心を表現してきました。この「唄の掛け合い」という習慣は、古事記や日本書紀などでも盛んに行われてきたもの。大胆な跳躍、裏声を駆使した島唄の旋律は多彩で洗練され、今でも多くの人々に愛されています。

旧暦が息づく島の暮らし

Life based on Old Chinese Calendar

自然とともに暮らす奄美では、多くの年中行事は旧暦で行われています。



旧正月に行われる節田マンカイ(県指定無形民俗文化財)



潮に浸かり女兒の健康を願う旧三月三日の節句。



大潮の日は、海釣りを楽しむ。



旧暦四月の浜オレ。舟漕ぎ競争や余興などを楽しむ。



旧八月十五日(十五夜)は、五穀豊穡を祈り豊年相撲などを開催。



十五夜に行われる竿踊りは、実った稲穂を表現。(住用町)

あふれる生命力とリズム

八月踊り

Brimming with Rhythm and Vitality
Hatchi-Gatsu Odori dancing

奄美では、生命力あふれる独特のリズムの八月踊りがあります。収穫を終えた八月に五穀豊穡と来年の予祝を祈るこの踊りは、男女が円陣を組み、太鼓のリズムで歌い踊ります。

At its heart, Hatchi-Gatsu Odori dancing is a prayer of thanks in anticipation of a good harvest the following year. Men and women form a circle as they sing and dance to ancient rhythms.



踊りを盛り上げる指笛名人

八月踊りに、太鼓は欠かせない。考祖祭のアラセツやシバサシなどでは、八月踊りを踊りながら家々を回り、福を分配する。(笠利町佐仁/県指定無形民俗文化財)



幕末の奄美民俗のバイブル『南島雑話』に出て来る奄美の八月踊り風景。(名越左源太著/奄美博物館所蔵)



奄美高校郷土芸能部
奄美の太鼓(チヂン)や三味線、シマ唄で、島の伝統文化を表現。若さあふれる独自の演舞で各地のイベントに出場し、観客を魅了している。



舞台上で繰り広げられた唄遊び風景。